

リサイクルポート推進協議会（平成 29 年 3 月 23 日発行）

《今週号の主な内容》

◇先週・今週の報道発表

1. 平成 29 年度低炭素製品普及に向けた 3R 体制構築支援事業を募集します
2. 長期低炭素ビジョンの取りまとめについて
3. 東京湾再生のための行動計画（第二期）第一回中間評価の結果について

◇RPPC 事務局からのお知らせ

1. H28 第 2 回循環資源利用促進部会の開催について（4 月 11 日）
2. 庄内リサイクル産業情報センターのメールマガジン

◇リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 港湾の中長期政策、港湾分科会で委員から意見聴く
2. 浚渫工 I C T 対応等、港湾工事積算基準を改定
3. 港湾局が薬注工法の対応方針を検討、年度内にまとめ

=====

◇先週・今週の報道発表

1. 平成 29 年度低炭素製品普及に向けた 3R 体制構築支援事業を募集します。

<http://www.env.go.jp/press/103778.html>

【環境省 平成 29 年 3 月 16 日】

2. 長期低炭素ビジョンの取りまとめについて

<http://www.env.go.jp/press/103822.html>

【環境省 平成 29 年 3 月 16 日】

3. 東京湾再生のための行動計画（第二期）第一回中間評価の結果について

<http://www.env.go.jp/press/103818.html>

【環境省 平成 29 年 3 月 17 日】

=====

◇RPPC 事務局からのお知らせ

1. H28 第 2 回循環資源利用促進部会の開催について

本年度第 2 回循環資源利用促進部会の下記のとおり開催致します。

日時：2017 年 4 月 11 日（火）午後 3 時～

場所：みなと総研 3 階会議室

ご多忙中とは存じますが、ご参集お願いいたします。

2. 庄内リサイクル産業情報センターのメールマガジンです。

～ 下記をご参照ください ～

=====

◇リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 港湾の中長期政策、港湾分科会で委員から意見聴く

国土交通省港湾局は 3 月 10 日に開催した交通政策審議会港湾分科会において、2030 年を目標とした港湾の中長期政策の取りまとめ動向を説明すると共に委員から意見を聴いた。同中長期政策は今年夏、新しく取り込む政策事項についての中間取りまとめを行い、30 年夏に最終版を策定する方向で作業が進んでいる。

港湾の新たな中長期政策は、現行の港湾政策事項においても必要な事項は継続しつつ、「新しく打ち出す政策」、「将来の打ちだしに向けて検討を進める政策」に分けて議論を進めている。このうち「新しく打ち出す政策」では、▽グローバル SCM を支える国際輸送ネットワークの構築、▽効率的かつ持続的なサプライチェーンの構築、など。

また「将来の打ちだしに向けて検討を進める政策」は、▽資源エネルギーサプライチェーンの多様化への対応、▽港湾・物流活動のグリーン化、▽大規模災害に備えたサプライチェーンの強靱化など。

委員からは、▽どのテーマをいつまでに行うかといった視点が必要、▽内航を重視した政策の必要性、▽地方創生に繋がる港湾ビジョンを打ち出すことが重要、▽東南アジアネットワークの強化が大事、などの意見があった。

【港湾空港タイムス】

2. 浚渫工 I C T 対応等、港湾工事積算基準を改定

国土交通省港湾局は、港湾の土木請負工事等の積算価格を算出する基準となる「国土交通省港湾請負工事積算基準」を改定する。I C T を活用した港湾工事（浚渫工）の起工測量等に適用するマルチビーム測探に係る施工歩掛や、岸壁改良工事等における附属工の撤去に使用する防舷材・車止の撤去にかかる施工歩掛を新設する。4月1日以降に入札を行う工事、並びに同日以降に契約する業務から適用する。

マルチビームによる測量等の歩掛新設は、港湾工事において測量から設計～施工～検査に至る一連の建設生産プロセスを通して3次元データの活用を図り、工事の生産性と安全性の向上を推進するために実施する。来年度施行工事を行う、「I C T 活用工事（浚渫工）」に適用する。

【港湾空港タイムス】

3. 港湾局が薬注工法の対応方針を検討、年度内にまとめ

国土交通省港湾局は3月9日、「第2回埋立地等における薬液注入工法による地盤改良工事に関する検討委員会（委員長・善功企九州大学大学院工学研究院特任教授）」を開催した。埋立地における地盤改良前の対象地盤の評価方法、施工中の施工管理方法、改良後の施工確認方法について、現状の課題と対応方針、中長期手な課題等について検討した。今回の議論を踏まえ、年度内に対応方針等を取りまとめ公表する見通し。

同検討では地盤改良効果が長期にわたって期待される薬液注入を用いた液状化対策、耐震補強対策等の強度増加、止水性の向上を目的としたものを適用範囲とし、同目的で開発された低速度で薬液を地盤内に均一に浸透注入できる工法を対象としている。

【港湾空港タイムス】

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金（株）

部会員：山崎 和宣 五洋建設（株）

木村 竜也 東京都

梅木 重光 （株）酒田港リサイクル産業センター

新谷 聡 りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：本野、清水、菅木

URL：www.rppc.jp E-mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////

■会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡下さい。開催案内等の情報をメルマガで配信致します。

■メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡下さい。

■メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡下さい。

PORTTOWN MAGAZINE

<18号~2017年3月>

2017年3月15日配信

このたびの熊本県、大分県を震源とする地震により
被害を受けられた皆さま、その家族の方々に心よりお見舞い申し上げます

みなさん、こんにちはメルマガ編集担当の齋藤です。今月も日本海側リサイクルポート、
能代港、酒田港、姫川港、境港、各港の最新情報を皆さんにお伝えしていきたいと思ひます。

それでは PORTTOWN MAGAZINE スタートです。

//////// I N D E X //////////////////////////////////////

① 能代港ニュース

- ・ <風力発電> 由利本荘沖で計画 国内最大規模。

② 酒田港ニュース

- ・ 酒田港コンテナ取扱貨物量が過去最高 3年連続記録更新
- ・ 酒田港利用し輸送費を削減。酒田市の小松写真印刷、陸送から転換

③ 姫川港ニュース

- ・ 糸魚川市、復興計画作成へ検討委発足 「修復型」でまちづくりへ

④ 境港ニュース

- ・ クイーン・エリザベス再来年春に鳥取・境港に初寄港

⑤ 編集後記

■ 能代港ニュース

○＜風力発電＞由利本荘沖で計画 国内最大規模

秋田県内で風力発電など再生可能エネルギー事業を展開するレノバ（東京）とエコ・パワー（同）、JR東日本エネルギー開発（同）が共同で、由利本荘沖で大規模な洋上風力発電事業を計画している。発電規模は国内最大規模となる最大56万キロワットを想定、2026年度の運転開始を目指す。

計画によると、建設予定地は由利本荘市の沿岸から1～4キロの沖合で、南北30キロの海域に着床式の風車を設置する。具体的な設置基数は今後決める。着工は21年度の予定。

■ 酒田港ニュース

○酒田港コンテナ取扱貨物量が過去最高 3年連続記録更新

山形県は、酒田港（酒田市）の2016年の国際コンテナ貨物取扱量が計2万3658TEU（1TEUは20フィートコンテナ換算）に上り、3年連続で過去最高を更新したと発表した。港に隣接する花王株式会社酒田工場の生産拡大や国際定期コンテナ航路の拡充で輸出が好調だった。

県経済交流課によると、輸出が前年比15.6%増の1万4272TEUで3年連続で最高を更新した。輸入は3.1%減の9386TEUだった。

輸出の品目別では、紙おむつを含む「日用品」が19.6%増の1万1349TEUで全体の約8割を占めた。輸入では紙おむつの原料となる「紙・パルプ」が5%減の1186TEU。住宅建材を含む「木製品」は42.1%増の941TEUだった。

同港の国際定期コンテナ航路は昨年、週7便を運行。花王は酒田工場を増設し、中国、ロシア向けの輸出拡大を図っている。

○酒田港利用し輸送費を削減。 酒田市の小松写真印刷、陸送から転換

酒田市の株式会社小松写真印刷がドイツから輸入した新型印刷機の荷おろし作業が3月1日、酒田港国際ターミナルで行われた。従来は横浜港から陸上輸送で同市まで運んでいたが、酒田港からであれば陸送の距離を大幅に短縮できるため、物流コストを約1割削減できるという。

今回同社が輸入したのはペットボトルラベルや菓子・洗剤などのパッケージに使われる軟包材に水性インキで印刷できるフレクソ印刷機。同社によると、紙の印刷市場が縮小する中、軟包材の発注量は増えているといい、特に水性インキによる印刷物は医療・

食品関係で需要が見込めると導入を決めた。水性インキのフレキソ印刷機の導入は、東北・北海道で初という。

組み立てると幅約 20 メートル、奥行き 4~5 メートル、高さ約 6.5 メートルになる大型機械で、コンテナ 10 個に分割して輸入した。コンテナはドイツ・ハンブルク港を 1 月に出発し、韓国・釜山を経由して 3 月 1 日に酒田港に到着した。市内の酒田京田西工業団地に建設中の新工場に設置する予定だ。

国土交通省酒田港湾事務所によると、県内の輸出入貨物の多くが東京港・横浜港を利用している。酒田港だと横浜港より物流コストを約 1 割削減でき、陸上輸送時の雪のトラブルを回避できるメリットがあるという。同社の佐藤社長は「酒田生まれ、酒田育ちで、地元資源である酒田港を利用できてうれしい。多くの県内企業に活用してほしい」と話した。

■ 姫川港ニュース _____

○糸魚川市、復興計画作成へ検討委発足 「修復型」でまちづくりへ

2016 年 12 月に大火に見舞われた糸魚川市の復興計画づくりが 2 日、本格的にスタートした。計画策定の中核を担う検討委員会が同日発足。事務局を務める糸魚川市は抜本的な基盤整備ではなく、歴史に培われた市街地を継承した「修復型のまちづくり」に取り組むとの基本方針を示した。今夏の計画取りまとめに向け、被災した住民や事業所との合意形成や、にぎわいをどう創出するかが課題となりそうだ。

発足したのは「糸魚川市駅北復興まちづくり計画検討委員会」。学識経験者や地元商店街の関係者ら 14 人で構成する。委員長には市が国土交通省から迎えた木村英雄副市長が就任。計画策定に当たっては、国、新潟県、糸魚川市が設立した「糸魚川復興まちづくり推進協議会」などが専門的な助言をする。

■ 境港ニュース _____

○クイーン・エリザベス再来年春に鳥取・境港に初寄港

世界で最も有名な豪華客船といわれる「クイーン・エリザベス」が平成 31 年春、鳥取県の境港に初寄港することになり、同船を運航する英国の客船会社「キューナード・ライン」が発表した。山陰地方の港にクイーン・エリザベスが寄港するのは初めて。

クイーン・エリザベスは 1938（昭和 13）年に初代が建造された。現在は、2010（平成 22）年 10 月に就航した 3 代目。約 500 億円をかけて建造され、9 万 900 トン、乗客定員 2081 人。初代をイメージした内装で人気が高い。

「 境港管理組合、境港市観光協会

「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「